

富士市青少年体験交流事業 「無限∞のキズナ」実行委員の心得

富士市教育委員会

社会教育課

令和 5年 3月 1日策定

令和 6年 3月 1日改訂

目 次

1	富士市青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」誕生までの経緯	2
	(1) 富士市青少年の船	
	(2) 新たな青少年健全育成事業「キズナ無限∞の島」	
	(3) 新候補地の検討と「キズナ無限∞の島」の中止	
	(4) 新候補地「国立信州高遠青少年自然の家」	
	(5) これからの青少年体験交流事業に求められること	
2	「研修の目的（最高のチームを作ろう）達成について」	5
3	実行委員会の役割	6
4	目的の達成	7
	(1) 個人としての約束	
	(2) 実行委員会としての約束	
5	安全確保	11
	(1) 「研修生の命」を預かるという自覚を持つこと	
	(2) チルドレンアイズ（CE）と危険予知（KY）	
	(3) KY（危険予知）を発展的に活用すること	
	(4) 「メリハリ」のスイッチを大切にすること	
6	理想的な立ち位置	13
	(1) 全体を見渡せる位置	
	(2) 研修生から近い位置	
	(3) 2・6・2の後ろの2への意識	
7	研修全体に係る注意事項	14
	(1) 実行委員会としての機能	
	(2) 体調管理	
	(3) 人員確認	
	(4) 就寝時の人員確認・就寝後の安全確認	
	(5) バス移動	
	(6) 服装	
	(7) 持ち物	
8	おわりに ～無限∞のキズナは青少年健全育成を託された襁～	18

1 富士市青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」誕生までの経緯

(1) 富士市青少年の船

富士市では昭和 59 年から、21 世紀の富士市を担う青少年を育成するため、洋上（船）という非日常的な環境の中、多くの同世代・異世代との交流を通して、協調性、責任感、社会性等を身につけることや、リーダーとしての心構えや接し方等を学び、事業修了後に青少年指導者の担い手として活躍することを目的に、本市の青少年健全育成の象徴的事業として、29 年間「富士市青少年の船」（以下「青少年の船」）を継続実施し、12,000 人を超える青少年が研修生として参加しました。

しかし、富士市教育委員会（以下 教育委員会）では、青少年の船事業の効果は認めるものの、研修生の定員割れが続いていること、多額の経費を要すること、より多くの子どもが参加できる事業に改める等の理由から、平成 24 年度を最後に中止することになりました。

(2) 新たな青少年健全育成事業「キズナ無限∞の島」

新たな青少年健全育成事業実現を図るため、平成 25 年 5 月に「富士市青少年健全育成事業懇話会（以下 懇話会）」を組織し、現地視察を含む 7 回にわたる検討を行いました。

その結果、社会教育という学校教育や家庭教育とは異なる視点で行う青少年健全育成事業が担うべき役割は、「徳育」に関する発達課題（発達段階ごとの子どもの成長に関して、特に重視すべき課題）の解決にあるという結論が出され、発達課題の解決のため、「一生懸命生きることの大切さ」、「キズナの大切」という 2 つのテーマを共に学ぶことが最善であるとの認識から、テーマに適した研修地として宮城県気仙沼市にある大島を選定しました。

教育委員会では、懇話会から提出された意見提言書を踏まえて検討を行い、平成 26 年度から青少年健全育成の象徴的事業として、豊かな自然を有した宮城県気仙沼市の大島を舞台に、宿泊体験研修を通して、「一生懸命生きることの大切さ」、「キズナの大切さ」を共に学ぶことを目的に富士市青少年体験交流事業「キズナ無限∞の島」（以下「キズナ無限∞の島」）をスタートしました。

(3) 新候補地の検討と「キズナ無限∞の島」の中止

「キズナ無限∞の島」事業がスタートして 2 年が経過した、平成 29 年度・決算富士市議会事業評価において、事業の有益さは認めるものの、富士市からの移動距離のリスクについて指摘がされ、他の研修候補地について、社会教育課内で検討がスタートしました。「キズナ無限∞の島」後継事業にふさわしい候補地として、様々な場所が挙

げられましたが、最終的には「三重県鳥羽市答志島」が大島のように島独特の雰囲気を持っていることから候補地として絞られました。

そのころには、大島の宿泊地から高齢化による宿泊業の廃業や、規模縮小といった問題に加え、東日本大震災からの復興が進んだことにより、観光客が増加し、キズナ無限の島事業の受入れが限界にきている旨の要望がありました。

また、同時期にコロナ禍となってしまったことで、コロナ禍での事業実施が非常に困難となり、令和2年度から3年連続で本研修を中止することになってしまいました。

こうした情勢の中、過去の実行委員長、ブロック長をメンバーとする「令和3年度青少年体験交流事業新候補地検討会」が立ち上げられ、三重県鳥羽市答志島での実施について本格的な検討が進められました。しかしながら、事業の具体化が進み、最終段階として、答志島旅館業組合へ実施について打診をしたところ、受け入れができないとの回答が出てしまったことから、候補地の検討は振出しに戻りました。

(4) 新研修地「国立信州高遠青少年自然の家」

大島や答志島での回答により、夏季シーズンに民間施設への宿泊をすることが実質不可能であることが判明したことから、公立施設への宿泊へと視点を変更し、その中で魅力的なプログラムが実施できる研修地を抽出し、各施設との交渉をした結果、「国立信州高遠青少年自然の家」のみが本市の事業を受け入れていただけました。

信州高遠自然の家は長野県伊那市にあり、南アルプスの山々に囲まれた自然豊かな場所に立地しており、近くには白樺湖もあり、富士市では経験ができない本格的なカヌーなどの水上体験ができるなど、数多くの体験学習を子どもたちに提供できる環境が整っています。

この研修地を令和5年度からの新たな候補地として、青少年体験交流事業新候補地検討会で承認を得たのち、富士市社会教育委員会議、教育委員会議で新候補地に関する説明がされました。

(5) これからの青少年体験交流事業に求められること

令和2年度より発生したコロナ禍により、Face to Faceで交流する機会が減少、または忌避されてきたことで、子どもたちの人とコミュニケーションを取る機会が激減してしまいました。また、世界情勢としても、ウクライナ紛争に端を発する諸問題等、民族間の争いや人と人が争うニュースが日々の中で流れることが多く、閉塞感が漂う状況にあります。

このような情勢の中、実施される、新しいキズナ事業は、南アルプス・中央アルプス・八ヶ岳を望む、長野県伊那市高遠町・国立信州高遠青少年自然の家を舞台に、日ごろ体験することがない自然体験活動や仲間づくりプログラムを通して、日常のコミュニティ

とは異なった環境の中で、集団生活を送ることにより交友関係を広げ、仲間と困難を共に乗り越えることを体験し、コミュニケーション力や課題解決力を身に着けることが目的であります。

また、この事業での仲間づくりの体験から、人を信頼することで生まれる、仲間とのキズナの大切さに気づくと共に、日常生活に戻った後も、学校や地域の中でのリーダーとして活動をする人材の育成基礎を作り、次世代のリーダー育成のきっかけとなることを目的として実施していきます。

「コロナ禍で失われた世代」とは言わせないために、青少年体験交流事業は人と人のコミュニケーションから生まれるキズナ体験を生み出し続けます。みなさんも、子どもたちに「仲間の大切さ」、「みんなで困難を乗り越えることの大切さ」を伝えながら、「富士市には子どもを見守ってくれる大人がいる」という安心を伝えていきましょう。皆さんの背中が未来の大人の目標となるために。

■本事業の目的

「徳育」に関する発達課題の解決につなげるべく、3つのテーマを研修生と共に学ぶこと。

- ① 仲間とのキズナの大切さ
- ② 自らの課題を見出し、解決する力
- ③ みんなで課題を乗り越えることの尊さ

2 研修の目的（最高のチームを作ろう）達成について

◆最高のチーム作り◆

新しい「無限∞のキズナ」事業の本研修での目的は「最高のチーム（仲間）を作ろう」です。

これは、本研修が終了した時点で、チーム全体として「このチームは最高のチームだ」と思えること。個人として、「自分にとって最高のチーム（仲間）の一員になれた。」と思えることが一定のゴールといえます。

では、何をもって最高とするのか？それはチームごとに異なります。本研修前の事前研修で最高のチームにするためのキーワードを決めます。チームの状況を見極め、キーワードを研修生と決めていきましょう。

例えば、

最高のチームとは、「全員が心からの『ありがとう』が言える関係」という目標をチームで決めます。おのずと、キーワードは「ありがとう」になります。では、「ありがとう」が言える雰囲気づくりのために、どんなことをしたら良いか？本研修中での行動でできること、チームの決めごとを、研修生同士で決めさせてはどうでしょうか？

本研修中には、グループで行動すること、意見交換する場面がたくさんあります。その場面、場面でチームの決めごとを守れるか、または徐々にできるようにしていく仕掛けとなる決めごとを作ることで、チームビルディングの指標とすることができるようになります。

例えば、グループ活動を始める前後で、決まった掛け声や、アクションをみんなで取ることを決めたり、意見交換の場面では、意見の終了後に拍手や、決まった声掛けをするなど、簡単にできることを設定してはどうでしょうか。

最初は「やらされてる」感があったものが、自発的に、または感情が入ってくるなど成長が見て取れた時には、実行委員会から気付きを子どもたちに伝えていきましょう。

3 実行委員会の役割

「無限∞のキズナ」の目的を達成するため、実行委員会を組織します。

実行委員会が担う大きな役割は「目的の達成」と「安全確保」の2つです。まず、実行委員会は「目的の達成」を迫及する集団だと理解してください。

しかし、「目的の達成」が成されたとしても、そこに安全上の問題があり、その結果、事故等を引き起こしてしまった場合には、事業の中止のみならず、多くの方を不幸にさせてしまいます。実行委員は「目的の達成」を迫及すると同時に「安全確保」についても強い責任と自覚を持ち、取り組まなくてはなりません。

実行委員には、研修生のために「目的の達成」と「安全確保」という2つの役割を全力で担っていただけることを、切にお願い申し上げます。

最後に、実行委員とユースリーダーの役割についてですが、この事業では、実行委員が班全体を統括し研修の目標達成に向けたコントロール役を担い、ユースリーダーが班員のリーダーとして班員の取りまとめの役割が求められています。

船で例えるならば、研修生という船と、ユースリーダーというオールをコントロールして、目的地まで導く船頭が実行委員の役目です。船とオールは様々な研修プログラムという荒波に立ち向かっていきます。船の動力となるオール役のユースリーダーには研修生と一緒に力強く進めるように、船頭の実行委員が状況を判断して、安全な航路へ導きましょう。

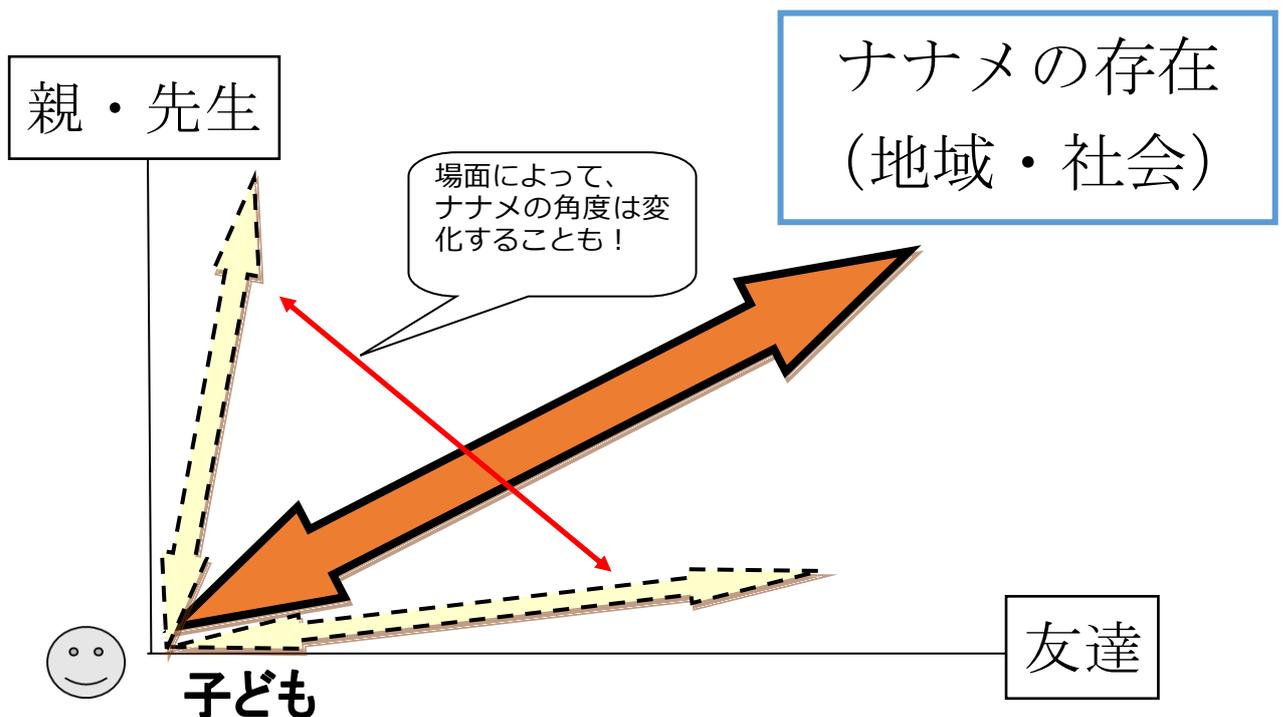
4 目的の達成

目的を達成するためには、実行委員個人としての約束、そして実行委員会というチームとしての約束を守ることが大切です。

(1) 個人としての約束

実行委員一人ひとりに約束してほしいのは「ナナメの存在」を目指すことです。学校の先生ではなく、親でもなく、友達でもない、ナナメの存在になることです。ナナメという角度だからこそ、届けられるものがあり、それが人と人との関わりにこだわる、「無限∞のキズナ」の大きな魅力なのです。

「ナナメの存在」とは、「ありのままの姿で一生懸命向き合う人」だと理解してください。指導者としての経験や技術の差に個人差があるのは当然のことであり、大きな問題ではありません。肝心なのは実行委員それぞれが個性ある「ナナメの存在」になれるかどうかです。



(2) 実行委員としての約束

個人として「ナナメの存在」を目指すのと同時に求められるのが、実行委員会というチームとしての団結です。そのために、「実行委員会3つの約束」を定めます。実行委員全員がこの約束を守り、「目的の達成」のために同じ方向を向くことができれば、必ず目的を達成することができると確信しています。

■実行委員会 3つの約束

①目的を理解し、共有すること

目的を達成するためには、実行委員全員が目的を共有することからはじまります。実行委員が理解していない、信じていないものは、研修生には伝わりません。実行委員長を中心に常に目的を確認し、共有していくよう心がけてください。

②「ナナメの関係」を理解し、共有すること

「ナナメの関係」を構築する鍵となるのが、研修生との信頼関係です。「無限∞のキズナ」は短期決戦で、事前研修から勝負は始まっています。以下は研修生との距離を縮めるためのアドバイスです。ぜひ、チームとしてのやり方を定め、研修生との間に信頼が生まれるよう努めてください。信頼関係があると、研修生が実行委員からの指導やアドバイスを受け入れやすくなります。

また、中学生にとっては、ユースリーダー、高校生も「ナナメの関係」の対象者となることを意識しましょう。特にユースリーダーは班をまとめる役としての役割を担います。実行委員は班全体を見守りながら、研修目標のゴールに導くことが求められますが、自らが先頭に立ってすべてを指揮してしまうとユースリーダーの役割がなくなってしまいます。ユースリーダーとの距離感、役割分担についても考えていきましょう。

研修生との距離を縮めるワンポイントアドバイス↓

- ・自分から笑顔であいさつすること。
（『ありがとう』も言葉にして、積極的に伝えていきましょう！）
- ・研修生の名前（キズナネーム）を覚え、名前で呼ぶこと。
- ・研修生の良い行動を言葉にして褒めること。
- ・研修生の考え、意思を「引き出す」ことを意識する。（自分の思いを言葉にすることが苦手な研修生が多い印象です。勇気を出して発した言葉を見逃さないようにしましょう。）
- ・どんな美辞麗句を並べても、大人の本気度がないと子どもは見抜きます。
子どもと向き合う時は、全身全霊で向き合しましょう。

R 5年度のキズナ学習②での一コマです。
円陣を組んで共通のメッセージを大きな声をみんなで出すことで、一気に心理的な距離を縮めました。



③ルールを共有すること

研修生が守るべきルールを定め、実行委員全員で共有することが大切です。ルールを守れなかった場合には、守れなかった研修生のため、その他の研修生のためにもしっかりと叱ってください。例外を認めることは誰のためにもなりません。また、実行委員間での報告、連絡、相談は徹底しましょう。叱ることは、全体のために行うことです。大変なことです。以下のアドバイスを参考に、実行委員長等と相談をし、チームとして叱るよう心がけてください。

- ・研修生を観察しておく。
⇒研修生がどういうタイプなのかを知るため。
- ・叱ることを通して、研修生に感じてほしいことをイメージする。
⇒叱られたことで、どんな気持ちになってほしいのか。
- ・適切な時、場所、タイミング等を決定したら、躊躇せずに叱る。
⇒上手に叱れなくても良いのです、大切なのは、相手の心に届けること。

【参考】

叱る・・・相手が良くない言動や過失をしてしまったときに、同じ過ちを繰り返さないように言い聞かせること。

★研修生にとって過ちを良い経験にする「支援」＝「叱る」

怒る・・・自分の欲求が満たされないときに、怒りの感情をぶつけること。
自己防衛の1つ。

■チームビルディングとユースリーダーとの関わり

「無限∞のキズナ」事業において、実行委員とユースリーダーの関係性はチームビルディングの過程において非常に重要です。研修生の中でユースリーダーは「研修生のお手本」として行動することが求められると同時に、「研修生のまとめ役」としての役割もあります。

この「研修生のまとめ役」として、ユースリーダーにどこまで求めるのかがチームを作っていく上でポイントになります。研修生のまとめ役として、チーム別の話し合いで中心的な役割を担うことになるユースリーダーですが、事前に研修内容の細かな部分については伝えられていません。キズナ学習の内容や、体験学習に関する現地の状況は把握していない状態で研修に参加することになりますので、各プログラムがスタートする前までに、ユースリーダーとコミュニケーションを取り、安全確保に関する情報の共有を行うようにしてください。

また、ユースリーダーとして参加する研修生の中には、チームリーダーとしての活動に慣れている人、逆に全く経験がない人など、経験値に大きな差があることを認識しててください。経験の差がリーダーとしての力量に差が出るとは限りませんが、

ユースリーダーとコミュニケーションを交わしていく中で、どこまで任せるかを決めていきましょう。

参考：ユースリーダーとして最低限は求めたい役割

- ・グループワーク、話し合いでの司会進行と意見集約
- ・チーム全員の体調管理のチェックと報告
- ・プログラム実施時の安全確認

参考：ユースリーダーとして求めたい役割

- ・チームの目標とチームの現状把握を実行委員と共有
- ・中・高校生の本心、内面に寄り添った振る舞い（良き相談者）
- ・場に応じたチームの雰囲気づくり

■実行委員とユースリーダーの違い

ユースリーダーは研修に全力で取り組み、研修生の模範となる行動をとることで、自身のリーダーとしての成長を目指します。また、実行委員と協力しながら班全体をまとめます。

ユースリーダーとして参加する青年は、役割を通して、リーダーシップやコミュニケーションの大切さを学ぶ機会にしてほしいと考えています。

しかし、ユースリーダーが研修生であることは忘れないでください。責任ある立場である実行委員はユースリーダー以上に高い意識を持って事業に臨む必要があります。そのような皆様の背中を近くで見せることが、ユースリーダーにとって何よりの学びになるのではないのでしょうか。

5 安全確保

(1) 「研修生の命」を預かるという自覚を持つこと

「安全の確保」は実行委員の重要な役割です。安全に研修を進行することは、実行委員が絶えず気を配らなくてはならないことです。そのために、まず実行委員は「研修生の命」を預かっていることを強く自覚してください。

「研修生」ではなく、「研修生の命」を預かっているのです。この2つは全く違いますので、正しく理解してください。「研修生の命」を預かっているという基本的な考え方を持つことで、正しい危険予知（KY）がされ、安全なプログラムの計画及び実行につながります。

(2) チルドレンアイズ（以下 CE）と危険予知（以下 KY）

「研修生の命」を預かっているという考え方を踏まえ、各プログラムの計画及び実行をする中で、重要になる視点がCEとKYです。CEとKYは密接に関係しています。

CEは子ども目線で考えることにより、色々なイメージを膨らませることです。例えば、初めて研修生が顔を合わすオリエンテーション時に研修生が考えていることと、研修中のネイチャーカヌー時に研修生が考えていることは全く違います。KYはCEの視点で予測される研修生の心境や体調等を踏まえて、起こりうる危険を予知することです。

また、自分の経験則だけに頼ることも避けましょう。「前は大丈夫だったから、今回も大丈夫。」こういった油断が、事故を引き起こします。

実行委員はプログラムの計画及び実行をする際には、このCEとKYの視点を必ず取り入れてください。

(3) KY（危険予知）を発展的に活用すること

KYは研修生の安全確保をする上で重要な視点であると同時に、これもあれも危険に感じてしまい、プログラムの実行及び計画をする上での否定的な考えにつながる恐れがあります。

そこで、実行委員にはKYを発展的に活用することを意識してほしいと思います。例えば、「目的の達成」のために、仲間と協力することの大切さを伝えるため、班で協力して崖を登るというプログラムを計画したとします。「研修生の命」を預かっている立場であること、またCEとKYの視点から考えた結果、多くの危険があることに気がつきました。では、このプログラム自体を単に中止するのではなく、安全が確保された上で、仲間と協力することの大切さを伝える別の方法を提案するよう、

KYを発展的に活用していきましょう。

(4) 「メリハリ」のスイッチを大切にすること

「安全確保」は確かに重要なことですが、考えすぎてしまうと、「無限∞のキズナ」を実施しないことが一番の「安全確保」ではないかと考えてしまいます。

しかし、研修生は日常の生活からリスクと向き合いながら生きていますし、今後成長するにつれてあらゆる環境に適応していかなくてはなりません。「無限∞のキズナ」も、非日常の中で行う研修ですから、多少のリスクが伴うことを理解した上で実施しています。

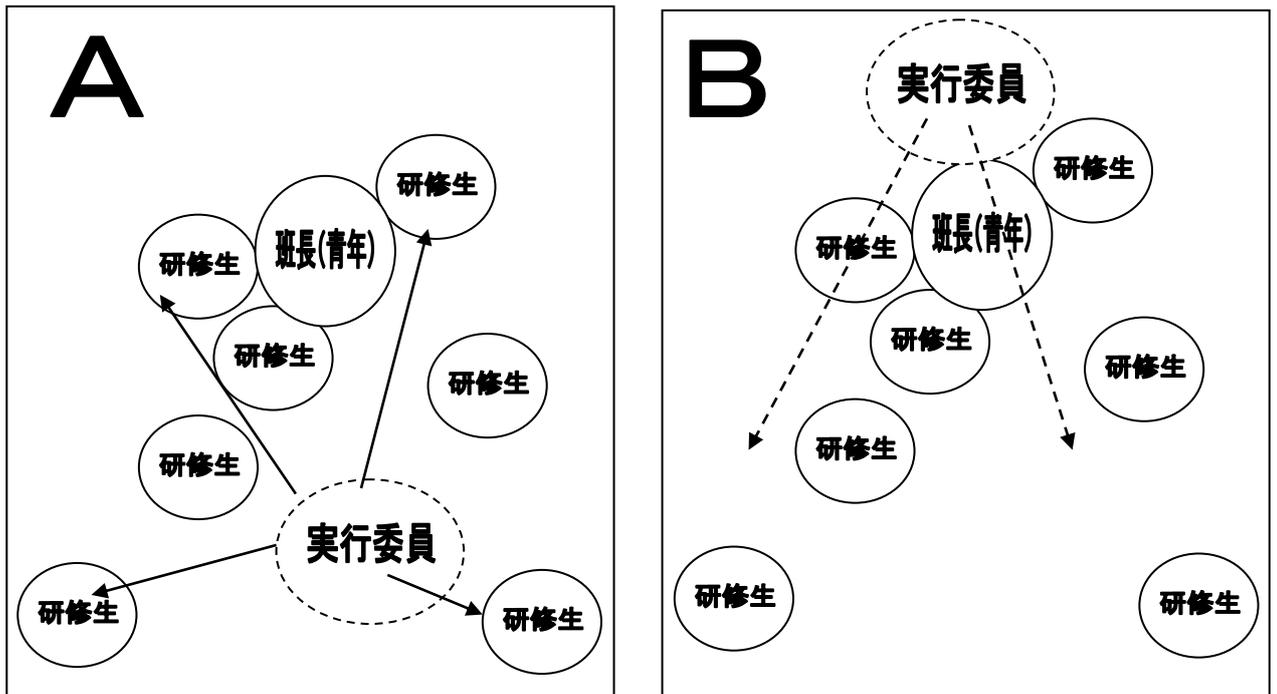
そこで大切になるのが「メリハリ」です。今は真剣に取り組む時間なのか、肩の力を抜いて楽しんで良い時間なのか、実行委員が「メリハリ」というスイッチを切り替えていくことが重要になります。

そのスイッチの切り替えを間違えると、同じプログラムでも、事故や対人関係のトラブル等が発生する確率が大幅に変わってきます。

実行委員として、引き締める場面、あえて緩める場面を的確に判断し、「メリハリ」のスイッチを切り替えるようにしてください。

6 理想的な立ち位置

具体的にナナメの存在である実行委員の立ち位置はどこになるのか？AとBの図を比較してください。この2つの図の違いから3つのポイントを確認し、各プログラムでの実行委員の理想的な立ち位置を考えてほしいと思います。



(1) 全体を見渡せる位置

班員全員を確認することができる位置を常に意識してください。図Bのように遠くにいて、全体を見渡せないような位置をとるのはやめましょう。

(2) 研修生から近い位置

図Aのように研修生になるべく近い位置をとり、研修生の表情まで確認することを意識し、積極的に関わりましょう。

(3) 2・6・2の後ろの2への意識

2・6・2の後ろの2は青少年指導者として大切な言葉です。子どもが10人いれば、常に意識しなくてはならない子どもが2人いるという意味です。実行委員は寄ってくる子どもより、輪からはずれている、後ろの2の子どもに常に注意をするようにしましょう。

従って、常に円の中心にいる班長と研修生の位置を確認し、輪からはずれている研修生を確認した上で、自らの立ち位置を決めるのが最適かもしれません。

7 研修全体に係る注意事項

本心得を踏まえた上で、各プログラムの詳細な注意事項を確認するわけですが、研修全体に関わる主な注意事項については、以下の通り定めておきます。

しかし、その他にも決めなくてはならない事項は多くありますので、その都度、本心得を踏まえて実行委員会等で検討を行い、共有していきましょう。

(1) 実行委員会としての機能

実行委員会は実行委員長、各班の実行委員で組織されています。

まず、共通認識していただきたいのは、実行委員長も含め全員が一人の実行委員であり、ナナメの存在であるということです。

その点を踏まえた上で、実行委員長には全体の統括という組織の中での役割を担っていただきます。

班内において、実行委員は班内の緊急時やプログラム変更等の対応、実行委員長や他の実行委員との報告・連絡・相談等、班全体を考えた役割を担います。

また、実行委員が、体調不良等、やむを得ない理由から自分の班を離れざるを得ない状況が想定されます。班内で実行委員とユースリーダーが協力し、様々な状況に対応できる関係を構築するため、以下のことに取り組んでください。

- ①班内での報告・連絡・相談を徹底すること。
- ②班のまとめ役として、ユースリーダーを機能させること。

(2) 体調管理

「無限∞のキズナ」は、宿泊研修ですので、体調に不安のある研修生の参加は認めません。

昨年ほどではありませんが、コロナ禍を経て、研修生の体力は皆様が思っている以上に低下しています。それはスポーツ庁が実施している、全国体力・運動能力、運動習慣等調査でも明らかにされています。このことを踏まえ、自分の体調や自分の学生時代を判断基準とせず、研修生一人一人の体調に気をかけるようにしてください。

また、研修中は良好な体調を維持するため、手洗いうがいを励行し、万が一、研修中に体調を崩し、班での対応が困難な場合には本部員（保健担当等）が対応します。緊急時には伊那市内や諏訪市内の病院に搬送できるような準備も整えています。

(3) 人員確認

各プログラムを始める前には、必ず人員確認を行います。

大自然を舞台に「安全の確保」を徹底するためには、人員確認が非常に重要です。人員確認ができるまでは、絶対にプログラムを始めないでください。

ユースリーダーは実行委員に報告、実行委員は報告を受けた内容をまとめ、実行委員長に報告してください。報告は全て口頭で構いませんが、大切な情報伝達ですので、必要があればメモをとるようにしてください。

最終的に、実行委員長が全班分をとりまとめて本部に報告し、本部では人員確認表に記載します。

万が一、研修生が行方不明になった場合には、プログラムを中止し、研修生の捜索を行います。その際は、本部で判断し、実行委員長から指示伝達をします。

【例】

(ユースリーダー)

報告します。1班、班員9名全員確認しましたので、〇〇プログラムを始めます。

(実行委員)

報告します。1班欠員2名です。◆◆さん腹痛、▲▲さん、発熱。2名とも保健室で待機。以上、全員確認しましたので、〇〇プログラムを始めます。

(4) 就寝時の人員確認・就寝後の安全確認

原則、就寝時間は22時00分です。就寝時間の10分前に各宿泊棟の責任者となった実行委員は、各宿泊棟の人員確認を行います。あわせて体調確認をしてください。もし、プログラム等の事情から消灯時間の変更がある場合も、あわせて報告願います。

万が一、研修生が行方不明になった場合には、研修生の捜索を行います。その際は、本部で判断し、実行委員長から指示伝達をします。

実行委員は緊急時を除き、本部会議終了後、研修生の就寝が確認できたら、お休みになってください。ぜひ、研修生のために、実行委員は睡眠時間を確保し、ご自身の体調管理に十分な配慮をしてください。

【例】

(宿泊棟のユースリーダー)

報告します。ログハウス〇〇の1班、2班、3班の男子班員15名全員確認しました。

予定通り22時00分に消灯します。

(実行委員)

報告します。ログハウス〇〇の1班、2班、3班の男子班員全員確認できましたので、予定通り22時00分に消灯します。また、2班の〇〇さんで

すが、腹痛から回復したので明日のプログラムから参加する予定です。3班 ▲▲さんですが、体温が37.5℃です。保健担当の指示のもと、薬を飲んで休んでいますので、翌朝、再度体調を確認します。

(5) バス移動

緊張と興奮が入り混じった状況での長時間移動となります。安全で快適な移動をするために、以下の対応をお願いします。

①酔い止め薬の服用

個人差はありますが、車酔いは誰でも起こる可能性があります。バス出発前に研修生全員に酔い止めを服用させるようにしてください。

②旅行者血栓症（エコノミー症候群）の予防

長時間同じ姿勢で座っている時に注意しなくてはならないのが、旅行者血栓症です。その予防に有効なのが、水分補給をまめにすることと、適度に足をマッサージすることです。

③サービスエリア（以下 SA）での安全確保

バス移動中は、1度SAにて休憩をとります。SAは夏休み期間ということもあり、混雑が予想されますので、実行委員はトイレ等への誘導や、人員確認に細心の注意を払ってください。

（本部員、旅行会社の添乗員等も常に安全確認を行います。）

④緊急時の対応

移動中に事故等による緊急事態が発生した場合、実行委員は研修生が動揺しないよう安心させることだけに集中してください。教育委員会と旅行会社では、あらゆる緊急時に対応できるよう、万全の体制を構築しておきます。実行委員は本部員またはバス添乗員の指示に従い、研修生への伝達及び対応に集中しましょう。

(6) 服装

研修生は研修にふさわしい服装で研修に参加してもらいます。指定のユニホームを1枚配布しますが、その他の時間は基本的に自由となります。ただし、安全面を考慮し、研修に不適切な服装は禁止とします。

「無限∞のキズナ」は、明確な目的を掲げて、大自然を舞台として研修を行う事業です。そのことを、思春期である青少年に伝える最も効果的な方法は、実行委員自身が研修生の見本になることです。

研修に適した服装が何故好ましいのか？実行委員自身が考え、自らが実行し、研修生に伝えてほしいと思います。

(7) 持ち物

バスでの長時間の移動を少しでも快適にするためには、荷物を極力コンパクトにし、バス内のスペースを確保することが必要になります。従って、研修に不要な物の持込は禁止とします。

特に、「目的の達成」、「安全の確保」の弊害になる恐れのある、携帯電話、携帯ゲーム機の持ち込みは固く禁止します。これらの持込みがあった場合には、研修生から預かり、本研修終了後まで本部で預かります。

持ち物も実行委員が手本となるよう、荷物をコンパクトにし、携帯電話の使用も必要最低限に留めるようお願いします。

8 おわりに ～無限∞のキズナは青少年健全育成を託された襷～

昭和 59 年に「青少年の船」から始まった富士市の青少年健全育成事業は、東日本大震災を経験した平成の時代に「キズナ無限∞の島」事業に引き継がれ、さらに、令和の時代に「無限∞のキズナ」事業として襷を引き継ぐことになりました。

長く事業を続けたことで、本市の青少年健全育成事業は広く、市民の皆様に浸透し、青少年健全育成事業に参加した研修生が親となり、自らの子どもを研修生として送り出す時期になっています。

社会情勢が変わり、教育現場に求められるニーズも目まぐるしく変化する昨今の情勢ではありますが、社会教育の原則である「学びの循環」の重要性は変わっておりません。本市が青少年健全育成事業をスタートさせてから 40 年の長きにわたり継承してきた「人と人をつなぎ、地域で子どもを守り、育てる」ことを体現した本事業は、実施する研修地が変わったとしても、根幹となる思いは揺るがなく引き継がれていくものであります。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックを契機に、人との距離感を物質的なものだけではなく、心理的な距離まで引き離してしまったことは、今を生きる子どもたちにとって大きな影を落とそうとしています。事実、コロナ禍となってから 3 年間は、キズナ事業は本研修を実施することができず、「キズナ事業の存続」が危ぶまれることもありました。

しかしながら、青少年健全育成事業を継続してきたことで紡がれた、青少年の健全育成事業の必要性に関する市民意識は、昨年のリニューアル事業に定員を超える応募があったことや、研修生とその保護者からのアンケート結果において、研修生の変化に気づき、事業に関わる方々に感謝する感想が多くあったことから伺い知ることができました。また、事業の継続にあたっては、富士市の想いに賛同し、応えていただいた多くの長野県内の方々の御協力があり実現しました。まさに、人と人の「キズナ」によって本事業はつながっています。

青少年健全育成にかける多くの想いにより、キズナ事業は今を迎えています。本事業に関するすべての人が、事業の趣旨を理解し、学んだことを、仲間と交流したり、地域の人々や子どもたちに発信することで、地域に貢献する「共助」の心を持った市民を育み、必ず、本市の子ども達の「徳育」の向上につながると信じています。

明日を拓く 輝く「ふじの人」づくり

新しい未来、輝く明日を自ら創り出し、輝いている「ふじの人」を作り出すために、

『 楽しい社会教育 から 成長できる社会教育
そして、キズナという襷を胸に、継続し、走り続ける社会教育へ 』